序文

世界銀行によって毎年公開される『世界開発報告』(WDR)は，鍵となる開発問題についての知識とデータに関する国際的なコミュニティの宝庫を活用して作成される主要な出版物である．本年版では世界で最も重要かつ切迫した課題の 1 つである移住(migration)を検討している．世界全体では 1 億 8,400 万人の移民が存在する．その中の 43%は低・中所得国に居住している．各国間および各国内において――実質賃金，労働市場機会，人口動態のパターン，そして気候変動に関連するコストなどの点で――深刻な相違があることから，移民問題はより広範囲にわたる差し迫ったものになりつつある．

移住は経済開発と貧困削減に本質的な貢献をするが，同時に問題やリスクを伴っている．移民はしばしば行き先国の経済を強化するスキル，活力，それに資源をもたらす．多くの場合，移住は移民の出身国も強化する．特に混乱期においては，移民の家族のためのライフラインとして，資金の送金によってコミュニティに極めて重要な支援機構を提供する．この『世界開発報告 2023』は，移民の行き先国，通過国，および出身国のそれぞれにおいて，移住をよりうまく管理するための政策を提言している．このような政策は移民が経済機会を活用すると同時に，移民が直面している困難やリスクを軽減するのを支援することができる．

WDR では「適合と動機の枠組み」を用いて移住に関連するトレードオフを検討する．「適合」の側面は労働経済学に基づいており，移民のスキルや関連する属性が行き先国のニーズにどの程度適合しているかに焦点を合わせている．これが，移民自身，出身国，そして行き先国が移住から得られる利益の程度を決定する――適合が強固であるほど，利益は大きくなる．「動機」は，機会を求めて，あるいは迫害，武力抗争，ないしは暴力という恐怖の故に，人が移住する状況を指している．後者の場合，行き先国にとっては国際法上の義務が生じるかもしれない．具体的には，自国において害を受ける「十分な理由のある恐怖(well-founded fear)」を理由として移住する人は，国際的な保護を受ける権利がある．「適合」と「動機」を組み合わせることによって，この枠組みは，出身国，通過国，および行き先国にとっての，さらに国際的なコミュニティにとっての，政策の優先順位を特定する．また，どのようにすれば二国間，複数国間，あるいは多数国間のイニシアティブや手段を通じて政策対応が改善されうるかについても検討されている．政策が設計され，そして実施されるその方法は，移民がより良い機会や改善された適合に向けて前進するのを支援することができ，そのことによって，万人にとって移住の利益が増加する．

移民の出身国は，例えば，送金の実行や受領のコストを引き下げることで，送金の流入を円滑化する方法を提供することによって，自国社会に対する労働移住の開発に関わる効果を最大化することができる．出身国は，言語のスキルを含め，しばしば行き先国と協働して教育機会を改善することも可能である．さらに出身国は，海外に散在する移民に投資を奨励することや，帰国移民が労働市場に再参入するのを支援することもできる．

移民の行き先国[受け入れ国]は，特に高齢化の進展あるいは特定のスキル不足が引き金となっている労働力不足に対応するという，長期的な労働市場のニーズを満たすために移住の潜在力を活用することができる．行き先国は，移民を人道的に処遇し，自国民への移民の社会的および経済的なインパクトに対処することに向けた努力を改善することができる．通過国は出身国と調整して，苦難の中での移住[困窮移住]に対処する必要がある．難民の受け入れにかかわるコストの分担に関しては，国際的な協力が決定的に重要である．

移住に関する挑戦課題と複雑性を認識しながら，今回の WDR は，トレードオフについてのデータ主

導型かつ証拠に基づく実例と評価を提示している．そして，移住が開発のためにどのように役割を果たすかを示している．この報告書は移住に関する理解を深めることに貢献するだろう．そして，政策策定者やその他の利害関係者が地域社会や個々人にとってのより良い成果に寄与するような知識に基づく選択を行い，有効な戦略を策定するに際し，政策策定者やその他の利害関係者にとって有用な参照先を提供するはずである．

デイビッド・R・マルパス
世界銀行グループ総裁

目　次

序文　v
謝辞　vii
本報告書で示される重要な事項　xiii
用語集　xv
略号　xvii

概観　*1*
移住はすべての国にとって必要である　*2*
政策担当者にとっての実践的な枠組み：「適合と動機のマトリックス」　*4*
適合度が高い場合には，大きな利益が得られる　*7*
適合度が低い場合，コストは複数国間で分担――かつ削減――される必要がある　*10*
移住をうまく機能させることは，物事のやり方を変えることを要請する　*12*
希望のメッセージ　*14*
注　*16*
参考文献　*17*

Chapter 1　適合度と動機のマトリックス　*21*
重要なメッセージ　*21*
人間を中心に据えたアプローチ　*22*
外国籍の人に注目する　*22*
2 つの視点：労働経済学と国際法　*23*
適合度と動機のマトリックス　*27*
政策の優先順位　*30*
注　*32*
参考文献　*32*
スポットライト 1　歴史　*33*

Part 1　あらゆる所得水準の諸国にとって移住は より一層必要になりつつある　*39*

Chapter 2　数字：誰が，どこへ，なぜ移動するのかを理解する　*41*
重要なメッセージ　*41*
現在のトレンド　*42*
動機とパターン　*47*
注　*55*
参考文献　*56*
スポットライト 2　データ　*58*

Chapter 3　展望：傾向，必要性，およびリスクは変化している　*67*
重要なメッセージ　*67*
人口構成：今後に生じる労働者を求める競争　*68*
気候変動：苦難の中での移動の新たなリスク　*75*
注　*80*
参考文献　*82*
スポットライト 3　方法論の考察　*86*

Part 2　適合度が高い場合には得られる利益は多くなる *91*

Chapter 4　移民：繁栄をもたらす――権利を伴っていれば効果はより一層高まる *93*

重要なメッセージ　*93*
より高い賃金を得ている　*94*
改善されたサービスへのアクセス　*99*
社会的コストへの対処　*102*
帰国　*103*
時には，失敗する　*105*
注　*106*
参考文献　*109*

スポットライト 4　ジェンダー *116*

Chapter 5　移民の出身国：開発に向けて移住を管理する *123*

重要なメッセージ　*123*
送金がもたらす開発面の利益の全てを獲得する　*124*
知識移転の活用　*130*
労働市場に対する影響の管理　*131*
戦略的アプローチを採用　*137*
注　*138*
参考文献　*140*

スポットライト 5　送金の測定 *147*

Chapter 6　移民の行き先国：経済および社会政策を通じて利益を最大化する *153*

重要なメッセージ　*153*
移民の労働から得られる利益　*154*
経済的利益を最大化する　*161*
社会的包摂を促進する　*166*
注　*176*
参考文献　*179*

スポットライト 6　人種主義，外国人嫌悪，および差別 *190*

Part 3　適合度が低い場合，コストは多国間で分担――そして削減――される必要がある *197*

Chapter 7　難民：中期的な視点から管理 *199*

重要なメッセージ　*199*
開発に関わる挑戦課題を認識する　*200*
地域的な連帯を通じて責任の共有を強化　*205*
緊急対応という枠を超えて　*209*
法的地位と機会へのアクセスを組み合わせることによって恒久的解決策に向けて進展を図る　*216*
注　*222*
参考文献　*224*

スポットライト 7　国内避難と無国籍 *230*

Chapter 8　困窮移民：尊厳の維持 *239*

重要なメッセージ　*239*
政策のトレードオフを認識する　*240*
国際的な保護を拡大する　*245*
合法的経路を通じて移民が移動する動機を変える　*250*
開発を通じて，移民のスキルや属性の適合度を高める　*252*
注　*254*
参考文献　*256*

スポットライト 8　「根本原因」と開発 *262*

Part 4 移住をより良く機能させるにはやり方を変える必要がある 269

Chapter 9 勧告：移住をより良く機能させる 271

重要なメッセージ 271
はじめに 273
強固に適合：全ての人を対象に利益を最大化する 273
適合の程度が低く，恐怖が移動の動機である場合：責任の共有を通じることを含め，難民受け入れの持続可能性を確保する 283
適合度は低いが恐怖が動機ではない場合：尊厳を尊重し困窮移動の必要性を削減する 288
改革に向けて欠くことのできない事項 295
注 302
参考文献 305

索引 310

ボックス

O.1 どれくらいの数の移民が存在するのか，またどこに住んでいるのか？ 1
1.1 外国人か，それとも外国生まれか？ 23
2.1 本報告書における移住のデータ 43
3.1 技術は各国の間での労働市場のミスマッチを解決できるか？ 74
3.2 サハラ以南アフリカにおける移住の複合的な動因 77
4.1 より包摂的なジェンダー規範を求めて移住する：高度な教育を受けた女性の事例 100
5.1 移民は当人の出身国に制度的および社会的な規範を移転できる 131
5.2 フィリピン：移民の出身国が移住から利益を得ることができる方法についての事例研究 136
S5.1 国レベルで流出入のギャップを検証する 148
6.1 移住の長期的な経済効果 155
6.2 深刻な文化的変化が生じている 171
6.3 ドイツから得られた教訓：亡命希望者や難民を成功裡に統合 174
7.1 ウクライナ難民の危機 202
7.2 難民のなかにはより高い水準の保護を必要としている人もいる 205
7.3 開発金融の実例：IDA の 難民・受入コミュニティ向けウィンドウ 208
7.4 難民状況が予測可能ないしは慢性的な場合は準備がきわめて重要である 211
7.5 帰国：帰郷か，あるいは新たな移動か？ 217
7.6 統合を通じてより良い成果を生む：コロンビアからの教訓 221
S7.1 IDP と難民を比較する 231
S7.2 国内避難と援助の対象の絞り込み 233
8.1 移住政策の外面化 242
8.2 難民の定義の変遷 247
8.3 小島嶼開発途上国における気候関連の移動 249
8.4 密入国業者と人身売買業者 251
9.1 今後の研究にとっての優先事項 296

図

O.1 イタリア，メキシコ，およびナイジェリアでは人口構成に関わる大幅に異なる要因が作用している 3
O.2 国境を越える移住に関する 2 つの視点 5
O.3 「適合度」が移民受け入れの純利益を決定し，「動機」がその国際的保護の必要性を決定する 6
O.4 適合度が高い場合，移住先国および移民の出身国の両方の政策は移住の利益を最大化することができる 8
O.5 適合度が低い場合，政策策定には，経済的利益と移民の尊厳の間で生じる移住先国にとってのトレードオフが含まれる 10
O.6 移民の本国と移住先国の双方における政策措置は困窮移住を削減することができる 13
O.7 移住の種類に応じて，必要とされる国際的協力の形態は明確に異なる 14
1.1 移民グループの種類が異なれば，必要とされる政策対応は異なる 21
B1.1.1 OECD に加盟している高所得国の多くでは，外国生まれの人の半数以上が帰化している 24
1.2 移民の適合度が高い場合，その貢献度は融合のコストを上回る 26
1.3 本国［出身国］に帰国すると危害を受ける「十分に理由のある恐怖」がある場合，移住先国はそのような人を受け入れる義務がある 27
1.4 「適合度と動機のマトリックス」は労働経済学と国際法の各視点を組み合わせて 4 種類の移動を区別 28
1.5 移民が「適合度と動機のマトリックス」のどこに当てはまるかは，移住先国の政策が部分的に決定する 29

1.6 「適合度と動機のマトリックス」は明確に区別される移民の各グループに対する政策の優先順位を特定することに役立つ …… 30
1.7 各国にとっての挑戦課題は，移民の適合度を改善し苦難の中での移動を削減することである …… 31
2.1 移動のパターンは明確に区別される適合と動機を反映している …… 41
2.2 移民および難民の大きな割合が低・中所得国に居住している …… 42
2.3 1960 年以降，低所得国の人口に占める出国移民の割合はほぼ倍増した …… 44
2.4 1960 年以降，高所得国の人口に占める入国移民および帰化市民の割合は 3 倍に増加した …… 44
2.5 越境移動は地域ごとに大きく異なる …… 48
2.6 移民がどこへ行くかは，大まかには移民の出身国によって左右される …… 50
2.7 ほとんどの移民は限られた数の国から移住している——そしてその傾向は強まりつつある …… 52
2.8 難民の流れは危機の発生直後に急増し，時とともに鈍化する …… 54
2.9 中所得国出身の難民が徐々に増えてきている …… 54
S2.1 多くの国勢調査は移住に関して基本的な一貫したデータを収集していない …… 59
3.1 人口構成と気候の変化が移住の傾向を転換させつつある …… 67
3.2 イタリア，メキシコ，およびナイジェリアでは人口構成に関わる大幅に異なる要因が作用している …… 69
3.3 人口は所得が低い国では急増している一方で，所得が高い国では間もなく減少し始めるだろう …… 70
3.4 所得が高い国は急速に高齢化している一方で，所得が低い国は若さを維持している …… 70
3.5 高所得国では高齢者の数は増加している一方で，生産年齢の人の数は減少している …… 71
3.6 2050 年までに高所得の OECD 加盟国では高齢者 1 人を支える生産年齢の人の数は 2 人未満になるだろう …… 71
3.7 中所得国において，女性 1 人が産む子供の数は急減しつつある …… 72
3.8 多くの上位中所得国で，高齢者の割合は高所得国で通常みられる水準に達しつつある …… 72
3.9 2050 年までに，サハラ以南アフリカは人口が増加している唯一の地域になるであろう …… 73
B3.1.1 アメリカの雇用増加は若くて教育程度の高くない労働者が従事している職業について多くなると予想されている …… 74
3.10 気候変動は所得と居住適性を通じて移住に影響を及ぼす …… 76
B3.2.1 移動の動因の絡み合い …… 77
4.1 移民のスキルや属性が移住先社会のニーズに適合している場合，利益は大きい …… 93
4.2 バングラデシュ，ガーナ，およびインドでは，国際移住による所得の増加は国内移住の場合の数倍に相当する …… 94
4.3 高所得国に移住した移住者と同じ経済的利益を移住していない人が本国において達成するには，数十年間にわたる経済成長が必要 …… 94
4.4 低スキル移民にとっては，所得は移住先で著しく増加する …… 95
4.5 GCC 諸国に移住する南アジア人労働者は移住にかかわる最も高いコストの1つに直面する …… 96
4.6 アメリカでは，移民の賃金はアメリカ国籍を有する人に近い——移民が書類を持っている場合 98
4.7 UAE では，移民労働者が雇用者を変更することを可能にする改革の後には，契約更新の際に受け取る利益が増加するようになった …… 99
B4.1.1 高いスキルを有する女性の出国移住率はジェンダーに基づく差別が中程度の諸国で最も高い …… 100
4.8 留学生の行き先になっている国は世界のさまざまな地域から外国人留学生を引き付けている …… 101
4.9 アメリカに移住した人のごく少数のみが出身国に戻り，それは主に他の高所得 OECD 諸国出身者である …… 104
4.10 西ヨーロッパへの移住者の多くは出身国に戻るが，東ヨーロッパ諸国から移住した女性合はそうではない …… 104
S4.1 高等教育を修了した女性が移住する割合は，高等教育を修了した男性やスキルの低い女性よりも速く増加している …… 118
5.1 移民の出身国の政策は貧困削減に対する移住のインパクトを最大化できる …… 123
5.2 低・中所得国への外部からの融資金のフローのなかで送金は大きな割合を占めていると同時に，増加しつつある …… 124
5.3 送金が国民所得の 5 分の 1 以上を占めている国もある …… 125
5.4 ネパールでは 2001–11 年の間に，出国移住率が多い村で貧困水準が低下した …… 126
5.5 1980–2015 年において，送金の変動性は他の資本流入よりも低かった …… 128
5.6 2007–20 年において，ロシアからの外部への送金の流れはサウジアラビアと比べて石油価格との相関関係が強かった …… 129
5.7 移動体通信事業者経由の送金は他の経路を通じるよりも安価 …… 130
5.8 バングラデシュでは，帰国した移民は非移民と比べて自営業者ないし企業家になることが多い …… 132
5.9 平均的には，移民は出身国の労働力よりも教育程度が高い …… 134
5.10 ラテンアメリカ・カリブやサハラ以南アフリカからアメリカに移住した多くの高スキル移民はアメリカで高等教育を受けている …… 135
S5.1 2020 年時点における，送金の流入額と流出額のグローバルな推定値の間のギャップは 40%に達した …… 147
SB5.1.1 送金の推定額におけるギャップは多くの諸国で相当な大きさとなっている …… 148
S5.2 グローバル・レベルでは流出送金の報告は，流入送金の報告よりも，経済ファンダメンタルズに近い …… 149
S5.3 国レベルでは，送金の流出入に関する報告は経済ファンダメンタルズと矛盾しうる …… 150

6.1 移民のスキルや属性が移住先国のニーズに高度に適合している場合，移民の行き先国［受け入れ国］は利益を享受し，さらに政策措置を通じて自国の利益を増加させることができる …… 153
6.2 アメリカと西ヨーロッパでは，移民と帰化市民は教育水準の範囲の両端に集中 …… 156
6.3 入国移住が賃金に与えるインパクトは国によって異なる …… 159
6.4 平均すると，OECD 諸国においては移民や帰化市民の財政面での正味の貢献は受け入れ国生まれの市民による貢献を上回っている …… 160
6.5 移民の財政面での貢献は，移民が生産年齢である場合にはより大きい …… 161
6.6 多くの移住先国では高等教育を修了した移民・帰化市民の割合は労働力の平均を上回っている 163
6.7 カナダでは今では短期的な移住が永続的な移住を上回っている …… 164
6.8 スペインでは生徒対教師比率は移民生徒の割合が大きいほど高い …… 169
6.9 社会的統合の決定要因 …… 173
S6.1 南アフリカでは移民に対しては，肯定的な態度よりも否定的な態度のほうが多い …… 192
7.1 難民状態は各国間でコストを分担しながら，中期的な視点によって最も適切に管理される …… 199
7.2 難民の数は過去 10 年間で 2 倍以上になっている …… 200
7.3 状態が長期化している難民数は過去 10 年間で 2 倍以上に増加している …… 204
7.4 世界全体の難民の半分以上は中所得国に受け入れられている …… 206
7.5 3 つのドナーが難民向けの二国間 ODA のほぼ 3 分の 2 を拠出 …… 207
7.6 4 カ国で，第三国定住をした難民の 4 分の 3 を受け入れている …… 207
7.7 難民の流入への対応において，受け入れ国は中期的な持続可能性――財政と社会の両面で――を目指すべきである …… 210
7.8 難民は受け入れ国の国民よりも給付への依存度が高く，より不安定な条件の下で働いている …… 214
7.9 過去 15 年間において，恒久的な解決策を達成した難民の割合は非常に低い …… 217
7.10 難民になる人（認定者）の数が難民でなくなる人の数を上回っていることから，難民数は増加し続けている …… 217
7.11 法的地位と経済機会の間にある緊張関係が，難民状態を解決することにおける困難さの根源にある …… 219
8.1 政策の挑戦課題は困窮移動を削減すると同時に，移動者を人道的に処遇することである …… 239
8.2 毎年数千人の移民が移動中に死亡している …… 243
8.3 移民の出身国と行き先国における協調的な政策措置は，困窮下での移住を削減することができる …… 245
8.4 国際的な保護の下にあるニーズは連続的である 246
B8.2. アフガン人の亡命申請者の承認率は EU 加盟国相互間で大幅に異なっている（2021 年） …… 247
8.5 補足的保護は錯綜している …… 249
8.6 経済開発は移住の流れの構成を変化させる：国の開発の進展に伴って出国移民の教育水準は向上する …… 253
S8.1 出国移住をする傾向は中所得国で最も高い …… 263
S8.2 移住のハンプ［こぶ］は小規模国では顕著であり，大規模国では抑えられている …… 264
S8.3 中所得国が発展すると，その国の出国移住は増加し，主に高所得の行き先国に向かう …… 265
S8.4 低所得国が発展するのに伴って，移住，特に低所得の行き先国に向かう移住の傾向は低下 … 266
9.1 戦略的に管理すれば，移住はコストを軽減しつつ利益を最大化することができる …… 271
9.2 移民の出身国は貧困削減に向けて出国移住を管理できる …… 274
9.3 移民を受け入れる国は自国の利益のために移住を管理することができる …… 277
9.4 二国間協力は移民のスキルや属性と受け入れ国のニーズとの一致度を改善できる …… 282
9.5 難民受け入れ国は危機の発生時点から中期的な視点を採択するべきである …… 284
9.6 難民の受け入れに向けた努力の持続可能性にとっては多国間での協力が鍵となる …… 287
9.7 開発の進展は苦難の中での国境を越える移動の必要性を減らす …… 289
9.8 人間の尊厳が移住政策の基準であり続けるべきである …… 291
9.9 行き先国と「最後の国境と接する通過国」の間での協力が必要とされている …… 294
9.10 新しい金融手段と開発資源利用の拡充が移住の管理を改善するために必要とされている … 298
9.11 移住に関する論議を転換するためには新たな意見が必要とされている …… 301

地図

2.1 ほとんどの国において，他国に移住した人が人口に占める割合はごく小さい …… *45*

2.2 入国移民は，あらゆる所得水準の国で，世界全体にわたって存在している …… *45*

2.3 移住を引き起こしているグローバルな不均衡の一部は人間開発指数に反映されている …… *50*

2.4 ほとんどの難民は近隣諸国に避難している …… *53*

2.5 10 カ国で難民全体の半数以上を受け入れている … *53*

B3.2.1 サハラ以南アフリカは複合的な脆弱性にさらされている …… *78*

3.1 人々が屋外で働ける地域は縮小しつつある …… *79*

S4.1 出国移住者の数について，女性の方が多い国もあれば，男性の方が多い国もある …… *117*

S4.2 入国移住者の数について，女性の方が多い国もあれば，男性の方が多い国もある …… *117*

5.1 メキシコから出国する移民の割合は地域ごとに不均等 …… *132*

6.1 アメリカでは，入国移民世帯は大体が南部国境に沿った地域と主要な大都市圏に集中している …… *168*

6.2 ニューヨーク都市圏では，移民は特定の近隣地区に集中している …… *168*

B7.1.1 ウクライナ難民は EU 全体および近隣諸国で受け入れられている …… *202*

7.1 難民にトルコ国内の自由移動を許可することによって，政府は，難民が最初に到着したシリア国境に沿う地域のコミュニティが受ける影響を削減した …… *212*

S7.1 国内避難は世界全体で起こっている …… *230*

8.1 移動の主要な通過ルート …… *244*

表

O.1 主要な政策提言 …… *15*

9.1 主要な政策提言 …… *272*